

# 女子プロゴルフにみる競技者の技能習得モデルに関する研究

## A Study about the Skill Acquisition Model of the Contestant in Japan Ladies Professional Golf

1K04B098-2

佐田 敦則

指導教員

主査 間野義之先生

副査 リー・トンプソン先生

### 1章 緒言

“プロスポーツ”という概念が登場してから間もない我が国であるが、とりわけ国内の女子プロスポーツの歴史は浅い。1960年代に入ると一つの変化が始まる。女子プロゴルフの登場である。女子プロゴルフは現在、12月中旬から2月末までを除いてほぼ毎週末テレビ中継が行われている。2003年の宮里藍登場を境に人気を博す。また、2003年だけではなく、それ以降も数字を伸ばしていることを考えると、女子ツアーの盛り上がりはブームではなく、安定した人気であると思われる。

#### 研究目的

女子ゴルフの実情として、実力を持った若い選手が増え、人気を博したが、これら若くして実力を持った選手は、どのようにして育成されたのだろうか。そこで本研究では、選手が技術習得開始からプロ入会に至るまでの過程を「技術習得のフィールド」という観点からパターン化し、分類を行う。そしてこれらのパターンがどのように変化したかを分析し、今後LPGAがどのような活動を行っていくべきかを考察、提言することを目的とする。

### 2章 女子プロゴルフの歴史

日本における女子プロゴルフは1961年に始まった。1968年には初の公式大会が開催され、樋口久子選手が優勝、後に樋口は第一次ゴルフブームを起す。1980年代に入ると岡本綾子選手が登場し、1987年には日本人史上初のアメリカツアー賞金女王の座を手中に収めた。一方で、国内ツアーでは涂阿玉(とあぎょく)が圧倒的な強さを見せたが、岡本を凌ぐ人気を博すまでは至らなかった。1990年代は「スター不在」の時代を迎える。21世紀を迎えると新たな女王、不動裕理を迎えるが、スター選手と呼べるような選手にはならなかった。そして2003年に宮里藍選手が登場すると「藍ちゃん人気」が起り、その後ブームが一過性のものでなく、「女子プロゴルフ人気」となった。

### 3章 ゴルフにおける指導者制度

現在我が国におけるゴルフ指導者資格「ティーチングプロ(TCP)」の資格取得のためには書類審査、面接審査、さらに筆記審査に合格する必要がある、その上でB級講習会を受講して、資格が与えられる。(2007年12月1日現在)

### 4章 調査結果・検証

#### 1) 調査結果

選手は以下の技能習得パターンに分類される。

##### ・I型「ノンキャリア型」

学生時代にゴルフ経験がなく、学校を卒業後ゴル

フ場等に研修生として入社し、研修会への参加を通じてプロ入会をした技能習得パターン。

##### ・II型「キャリア型」

学生時代から部活動でゴルフ経験があり、学校卒業後I型と同じくゴルフ場等に研修生として入社し、研修会への参加を通じてプロ入会をした技能習得パターン。

##### ・III型「学校体育育成型」

学生時代に部活動でゴルフ経験があり、卒業後、若しくは在学中にプロ入会した技能習得パターン。

##### ・IV型「学校/家庭、学校/スクール複合型」

学生時代に部活動でゴルフ経験を持つ一方、家族の指導を受けたり、もしくはゴルフスクールでの指導を受けてプロ入会を果たした技能習得パターン。

##### ・V型「スクール・家庭育成型」

学生時代に学校部活動での経験を持たず、ゴルフスクール、もしくは家庭で指導を受け、プロ入会を果たした技能習得パターン。

##### ・「その他」

KLPGAにプロ入会后、LPGAにプロ入会したパターン。

### 2) 分析結果

選手の年齢が若くなるにつれて、技能習得開始年齢も若くなる傾向が確認された。そして若くして活躍している選手たちは、技能習得モデルパターンIII型、およびIV型の割合が高い。また、近年は父親が主たる指導者となる場合が増え、アマチュアに指導を受けた女子選手は活躍しない場合が多い。

### 5章 考察

若くから技能習得を開始した方が活躍するために有利である。少なくとも10代までに技能習得を始めていないと、活躍するのは難しい。III型、IV型から若くして活躍する選手が生まれる傾向があり、今後もこのパターンから活躍する選手が登場する可能性が高い。また、父親に指導された選手が若くして活躍する成功例が多くみられ、今後も注目される。

### 6章 まとめ

LPGAには今以上に多くの子供たちにゴルフと触れ合う機会作りを積極的に進めることが望まれる。同時に学校で指導にあたる教員などの指導も重要である。また、ジュニアゴルファー育成を支援も必要だ。いかなる方法にせよ、LPGAはもっとプロ入会以前の段階の選手たちに目を向けるべきである。若い時から経験や実績を積むことのできる環境、そしてより手軽に質の高い指導を受けられる環境を整備していくことが、重要な課題ではないだろうか。